

裸与信額と銀行取引一覧について

皆様は、取引先の金融機関の“裸与信額”というものを意識したことがあるでしょうか。

与信額とは字のごとく“信用を与えている(供与している)金額”という意味なのですが、銀行業界では、裸与信＝担保や保証でカバーしていない金額という意味合いで使用しています。つまり、プロパーでどの程度融資を行っているか、という意味です。この裸与信額、普段は意識しない経営者の方も多いのですが、実は金融機関別に並べてみることで、意外な事実が分かることもあるのです。

1. メインバンクの定義

皆様は、メインバンクの定義と言うと、どのようなことを意識されるでしょうか。

預金額や決済用口座として使用している銀行をイメージする方もいるかもしれませんが、多くの中小企業の方からすると“借入額の一番大きい金融機関”をイメージされると思います。その考え自体はあながち間違いでは無いのですが、そのメインバンクと適正なリスクを負わせた取引ができていくかという、そのような取引ができていく中小企業は少数派です。メイン銀行には、普段から適正なリスクを取ってプロパー融資をさせた方が、いざ資金繰りに困った際にスムーズに支援をしてくれる傾向にあります。

メインバンクが適正なリスクを負っていない場合、いざ資金に困った時に肝心のメインバンクの支援姿勢が極めて悪くなる、なんていうことの要因にもなるのです。

2. 裸与信について

それを理解する上では、まずは裸与信の算出式を理解する必要があります。

裸与信の算出式は、以下の通りです。

『裸与信＝総借入額－(信用保証額＋担保額)』
簡単に表すとこのようになるのですが、担保の中には不動産(時価で見ると見る場合もあれば7割程度の評価

で見ると見る場合も有り)や預金担保(実質担保もあれば固定性預金を含む場合も有り)が含まれており、企業の財務状態や資金ニーズに応じて、銀行が積極姿勢の場合や消極姿勢の場合等で、どの評価を採用するかが変わってきます。

この裸与信に注目しながら取引金融機関の一覧を作成してみると、意外(?)なことに、メインバンクが一切のリスクを負っていない、なんていうことも非常に多いのです。

3. 一覧表の作成

例えば、下記のような取引状況の会社があったとします。

	借入残高	保証額	不動産担保	預金担保	裸与信
A銀行	150,000	100,000	40,000	10,000	0
B銀行	40,000	10,000	0	0	30,000
C銀行	10,000	10,000	0	0	0
合計	200,000	120,000	40,000	10,000	30,000

(単位:千円)

この場合ですと、一見メイン銀行に見えるA銀行は一切プロパー融資を行っていません。このような与信状態になっていると、いざ企業が資金に困った時に、A銀行がプロパー実績の無い取引先に新たにプロパー融資をする、ということは非常にハードルが高いのです。

むしろ、普段からプロパー実績を作っていたB銀行の方が、支援をしてくれる可能性が高い傾向にあります。

4. 最後に

今回のコロナ融資で、信用保証付の融資を得られた企業も多いと思います。

今後、国の支援が無い状態でいざ資金が必要になった、と言う場合に備えて、普段から取引金融機関がどの程度リスクを負っているのか、ということも意識する必要があるのです。